

講習会・勉強会活動報告

テーマ：「臨床実習におけるクリニカルクラークシップ」

講師：国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 理学療法学科
学科長・教授 森田正治先生

日時：平成26年10月31日

内容：講義

参加人数：約100名（PT OT ST）

今回は、日本理学療法士協会も推奨している臨床実習指導方法の「クリニカルクラークシップ（以下CCS）」について、歴史的背景、ガイドライン、臨床実習教育、メタ認知などを基盤に指導方法など事例を交えてご講義いただきました。

CCSは学生をチームの一員として迎え入れ、情報を共有し、見学・模倣・実施の原則にのっとり、出来ること（Can）を経験させていく臨床実習方法です。当院（理学療法部門）では、来年度からCCSを導入していこうと考えています。名前ばかりが先行して、難しいイメージがあったのですが、講師の「新人指導と一緒にすよ。それを学生にもしてあげてください」というお話を聞いて、具体的にどうしたら良いのかイメージが湧いてきました。来年度の導入に向けて、大変貴重なヒントを頂きました。



また、CCSで学生に関わることは、見学の時点で学生に対してきちんと説明する能力つまり臨床推論能力が求められます。学生、指導者の間でいい意味での権威勾配（Win-Winの関係）が築ければ、学生を担当することで、指導者のスキルアップも図れると思いました。そうなれば、普段の臨床にも大いに役立ち、結果的に患者様にも有益になると思いました。

最後に、森田先生には限られた時間の中ではありましたが、分りやすくクリニカルクラークシップをご講義いただきまして、誠にありがとうございました。

（文責 理学療法課長 吉岡正和）